（第三種郵便物認可）　河北新報　第二朝刊　平成22年（2010年）3月9日（火曜日）　©河北新報社 2010

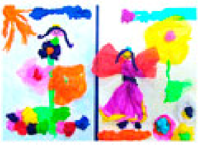
NIE特集

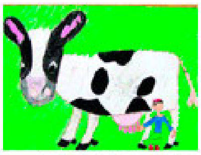
Newspaper In Education

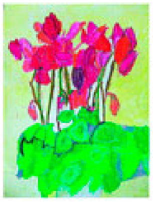
上杉山通小

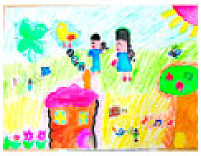
学校名　仙台市立上杉山通小学校　　校　長　菅原　修
所在地　仙台市青葉区上杉1の10の1　　児　童　901人
電　話　022（221）3392

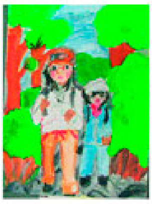
うきうきキャンバス

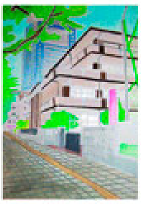

おやゆびひめと花のせい
1年・亀井安紗


でっかい牛のちちしぼり
2年・鷹野真文


シクラメン　3年・中山彩香


雲の国に迷い込んだ女の子
4年・佐藤鈴佳


一番上まで頑張ろう！
5年・須賀さつき


校舎　6年・佐々木梨里花

玉虫塗の魅力を探れ！

発色独特　透明に輝く

知り隊

鍵は銀粉の特殊加工

みなさんは仙台市の伝統工芸品を知っていますか。上杉山通小の近くには、玉虫塗という伝統工芸品を作っているお店があります。私たちは玉虫塗という印象的な名前を聞き、どのような工芸品なのかとても興味を持ちました。そこで、身近にある玉虫塗の歴史や、その良さについてくわしく調べました。

佐浦さん（右）に玉虫塗について取材

お話をうかがったのは、お店を経営する佐浦康洋さんです。

「玉虫塗は、日本で唯一、仙台で作られている特殊な漆塗りの工芸品です。その名の通り、玉虫という甲虫の羽の色を思わせる色合いと、ガラスのような透き通った輝きをもつ漆器です」と説明していただきました。

玉虫塗は、昭和3（1928）年に現在の榴岡公園（宮城野区）にできた国立工芸指導所で生まれました。当時の日本は、外国との貿易で輸出品が少なく、日本の工芸品を外国に輸出して、日本を豊かにしようと研究を進めていました。そのような中、世界に通用する日本の工芸品として、漆器が取り上げられ、玉虫塗が開発されました。

玉虫塗は、漆塗りですが、普通の漆塗りにはないガラスのような輝きをもっています。その理由を聞いてみました。「玉虫塗と普通の漆塗りとの決定的な違いが制作工程に二つあります。一つ目の違いは、普通の漆塗りは顔料というペンキのようなものを使いますが、玉虫塗は染料という透明で下地の見える塗料を使っていることです。二つ目の違いは、漆を塗る前に表面にまんべんなく銀粉をまいていることです。こうしてガラスのような輝きをもつ塗り物ができるのです」と教えていただきました。

取材を進めるうちに、このような美しい伝統工芸品の玉虫塗の良さは、見た目だけではないことを教えていただきました。それは「物を大切に使い続ける」という日本人が忘れかけた心を思い出させてくれることでした。昔の日本では、代々伝わる漆器や道具を大切に使い続けていました。使い捨てではなく、これわれたら直して、また使うといったエコを実践していたのです。

◇　◇

私たちはこの取材を通して、昔から変わらないものの良さ、物を大事に使っていくことの大切さにあらためて気づかされました。

文・安藤望、菅浣、八木玖太朗、吉田一優（5年）、大場美波、寺井大騎、古市陸、柳橋大也（6年）

教え隊　吹奏楽部と合唱部

昨年3月に行われた卒業合同演奏会

音楽に親しみ絆強く

上小には、子どもたちが音楽に親しむことを目的につくられた吹奏楽部と合唱部があります。吹奏楽部は1973年より活動を始め、吹奏楽とマーチングの両方で全国大会に出場するなど活躍しています。合唱部は1985年に設立され、合唱コンクールの全国大会に出場経験があります。地域のさまざまなところでも演奏し、美しい歌声を披露しています。

昨年より、合同で卒業コンサートを行い、音楽に親しむ仲間同士の絆を強くしながら、美しいハーモニーづくりをしています。

文・石山果穂、種市彩織（6年）、荒川恵梨香、伊藤瑠夏、吉田怜王（5年）

編集後記

今回の取材を通して、玉虫塗の良さや、伝統を受け継ぎ伝えることの素晴らしさを知ることができました。物や道具を大切に使うなど、学んだことをこれからの日常生活に役立てていきたいと思います。

新聞作りについては初めてだったので、私たちの思いがどうしたら読み手に伝わるのか、編集委員の仲間と何度も話し合い、考えました。1ページの新聞を作るために取材や構成を考え、たくさんの時間と人がかかわっているということを身をもって学ぶことができました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

〈編集委員〉安藤望、荒川恵梨香、伊藤瑠夏、菅浣、原ななみ子、八木玖太朗、吉田一優、吉田怜王（5年）石山果穂、大場美波、角田瑞季、菅野美晴、種市彩織、寺井大騎、古市陸、柳橋大也（6年）
題字デザイン　丸山京、鈴木美実乃〈6年〉
〈指導教諭〉笹川恵梢、加藤克己

言い隊

■相手のことを考えて■

公共施設という言葉の意味を知っていますか。公共施設とは、主に公園や駅など、みんなで使う場所のことです。その公共施設の公園に、ごみが捨ててあり、使う人のマナーが悪いと感じています。

上小では初夏と秋の2回、「わかばクリーン作戦」という活動を行っています。公園などをそうじをするたびに、たばこやガラスの破片が捨ててあるのを目にします。どうしてごみを捨てる人がいるのか、私は疑問に思います。

みんなで使う場所は、きれいに使わなくてはなりません。それには相手のことを考えなくてはいけないと思います。みなさんは、相手のことを考えて行動していますか。

（6年・菅野美晴）

■あいさつの輪 広がれ■

みなさん、あいさつすることの心地よさを味わっていますか。

私の学校では、毎朝校長先生が校門に立って、笑顔で「おはよう」とあいさつをしてくださいます。また、学校の前をそうじする奉仕活動では、道を通る人が「ありがとう」と声をかけてくださいます。私たちも校長先生や地域の方々に、「おはようございます」と元気にあいさつをします。あいさつをした後は、すがすがしい気持ちでいっぱいになります。

私は、このような人と人との心がふれ合うあいさつの輪がもっと広まり、みんなであいさつを交わし合う、気持ちのよい社会にできたらいいなあと思っています。

（6年・角田瑞季）

毎月第2・4火曜日発行　これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。